

## 令和5年度特定非営利活動に係る事業報告書

### 1 事業の成果

#### (1) 支援事業

##### ①入院中の患児とその家族への応援事業(こども病院、千葉大、成田赤十字)

###### ・季節ごとのイベントの実施

医療関係者との連携を図り、新型コロナ感染症対策を講じながら、夏祭り、ハロウィン、クリスマス、バレンタインなどの季節イベントを院内で開催した。部屋ごとに少人数ずつの形で子どもたちが楽しめるよう工夫した。

###### ・ICT(情報通信技術)活動

国際交流センターとのコラボレーションにより、ペルーへのバーチャルツアーや大学のオンラインイベントへの参加を実現した。子どもたちはロボット遠隔操作や現地の方との遠隔コミュニケーションを体験し、新しい文化や体験を楽しんだ。

###### ・アニマルセラピー

公益社団法人日本動物病院協会(JAHA)の協力を得て、人と動物の触れ合い活動(CAPP)を実施した。ワンちゃんと飼い主さんとの交流を通じて、子どもたちが癒しと喜びを感じることができた。

###### ・アスリート訪問

小児がん病棟へのアスリート訪問は、子どもたちやその家族にとって心の支えとなり、治療や回復への意欲を高める重要な役割を果たした。また、子どもたちは会話や挨拶を通じて感謝の気持ちを表現する機会になった。

##### ②退院後の患児・家族の交流を目的としたイベントの開催

###### ・BBQ(ふるさと農園)

病院や治療の環境から離れ、自然なリラックスした雰囲気の中で、健康的な食事や交流を楽しむことで、心身ともにリフレッシュすることができた。気持ちを共有する仲間づくりの場となった。

###### ・野球観戦(ZOZOマリンスタジアム)

公共の場で子どもたちが選手に対して大勢の人々と共に応援を送ることは社会復帰の一環となった。

##### ③茶話会

新型コロナ感染症対策中のため実施なし

##### ④経験者交流会(TIPSTAR DOME CHIBA)

「PIST6」という自転車レースを観戦しながら交流した。楽しい時間を過ごしストレスや緊張を解消し孤独感を和らげたり、自分自身の経験を通じて他者を励ましたり、社会的な支援や情報交換が行われることを目的として行った。

##### ⑤いっぷく亭

新型コロナ感染症対策中のため実施なし

##### ⑥成人医療移行支援(医師会勉強会)

新型コロナ感染症対策中のため実施なし

## ⑦教育支援

- ・学習支援ロボット Kubi の推進  
入院患児が原籍校の友達と遠隔での交流を続けるツールとして kubi を使用した。
- ・学生ボランティアによる支援活動  
小・中学校の教員や養護教諭を目指している学生（50名）へ講演を行い、遠隔操作ロボット temi と学習支援ロボット Kubi の操作練習を行った。
- ・退院後の復学に関する情報共有  
八千代市内の小中学校の養護・保健の先生方（50名）を対象に、退院後の復学に関する取り組みについて紹介した。退院後の子どもたちがスムーズに復学できるよう、様々な支援プログラムを提供し、養護・保健の先生方と復学支援における実践的な知識とノウハウを共有した。

## ⑧ホスピスケア

患児と一緒にアクセサリ作りをして過ごした。細かい手作業のため短時間で楽しく創作活動ができるよう取り組んだ。

## (2) 啓発事業

### ⑨患児家族向け講演会（淑徳大学第二キャンパス）

日本医科大学小児科 名誉教授 前田美穂先生をお迎えして「小児がん経験者と二次がん」と題して講演会を行った。

### ⑩公開講座（淑徳大学第二キャンパス）

富山大学学術研究部医学系小児科学講座 教授 今井千速先生をお迎えして「小児がんの治癒を目指して：分子標的薬や細胞製剤を中心に」と題して講演会を行った。

### ⑪日本小児血液・がん学会（北海道札幌市）

常に新しく正確な情報を提供し経験者や家族に対するサポート向上のため、また得た知識や情報を基に社会的な認知度の向上や啓発活動を推進することを目的に参加した。

### ⑫支援自販機

県内に8か所設置している。

### ⑬ゴールド・セプテンバー・キャンペーン

千葉ポートタワーをライトアップして、JCCG 主催のグローバル・ゴールド・セプテンバー・キャンペーン（GGSC）に参加した。

第1部では小児がんを闘う子どもたちに想いを込めて、ひとりひとりが絵を描いて灯ろうを作成した。また、千葉県国際交流センターの外国人講師の出身地のパキスタンやペルーの街の様子や暮らしの映像を見ながらお話を聞いた。第2部は千葉ポートタワーに移動して、作成した灯ろうを飾り YouTube でライトアップの中継を行った。集まった経験者の子どもたちやご家族からの想いを伝え、全国に呼びかけた。

## (3) 広報事業

### ⑭ホームページの運営

活動の内容を随時更新して会員だけでなく広く社会の皆様への情報提供に努めた。

## (4) 会報誌発行

### ⑮会員対象の会報誌

会報誌はミルフィーユ vol. 13 を発行することができた。

その他、千葉県こども病院の子どもたちの描いたワンちゃんや写真を使用した卓上カレンダーを作成して、人と動物の触れ合い活動（CAPP）を行う公益社団法人日本動物病院協会（JAHA）へ感謝の気持ちを表すことができた。

## 2 事業の実施に関する事項

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)	
(1) 支援事業	①入院中の患児とその家族への応援事業	院内イベント	月3～6回	・千葉県こども病院 ・千葉大学医学部附属病院小児科 ・成田赤十字病院小児科	2～4名	30名	901
	②退院後の患児・家族の交流を目的としたイベントの開催	BBQ	R5. 10. 28(土)	ふるさと農園 (千葉市花見川区)	16名	27名	165
		野球観戦	R5. 6. 25(日)	ZOZOマリンスタジアム (千葉市美浜区)	7名	18名	160
	③茶話会	年3回 (新型コロナウイルス感染症対策中のため実施なし)	千葉県内	—	—	0	
	④経験者交流会	R5. 12. 9(土)	TIPSTAR DOME CHIBA (千葉市中央区)	3名	16名	60	
	⑤いっぷく亭	毎週火曜 (新型コロナウイルス感染症対策中のため実施なし)	千葉県こども病院	—	—	0	
	⑥成人医療移行支援 (医師会勉強会)	年1回 (新型コロナウイルス感染症対策中のため実施なし)	千葉県内	—	0	0	
	⑦教育支援	随時	千葉県内	2～4名	不特定多数	48	
⑧ホスピスケア	R5. 5. 9(火)	千葉市内	2名	1	2		
(2) 啓発事業	⑨患児家族向け講演会	R5. 6. 4(日)	淑徳大学第二キャンパス (千葉市中央区)	10名	30名	29	
	⑩公開講座	R5. 11. 5(日)	淑徳大学第二キャンパス (千葉市中央区)	10名	35名	158	
	⑪日本小児血液・がん学会	R5. 9. 29(金) ～10. 1(日)	ロイトン札幌 (北海道札幌市)	4名	不特定多数	265	
	⑫支援自販機	通年	千葉県内		不特定多数	55	
	⑬ゴールド・セプテンバー・キャンペーン	R5. 9. 9(土)	・第1部 千葉県国際交流センター ・第2部 千葉ポートタワー	10名	第1部 25名 第2部 40名	352	
(3) 広報事業	⑭ホームページの運営	随時更新	社員自宅	3名	不特定多数	600	
(4) 会報誌発行	⑮会員対象の会報誌 (ミルフィーユvol. 13) 印刷、郵送	R5. 4. 29(土)	小中台公民館 (千葉市稲毛区)	6名	会員約200名 ・各施設での外来通院患者 ・家族150名	410	